

第 60 回弘明寺サロン開催報告

サロン担当 高橋照夫

日 時 2018 年 6 月 10 日（日）13：30～
場 所 神奈川学習センター第 4 講義室
講 師 今井 勇氏 人間と文化コース
演 題 佐藤正雄シベリア抑留記から読み解くシベリア抑留

弘明寺サロンでは会員、在学生の皆様から卒業研究、修士論文の講演を呼び掛けておりますが、今回は今井氏の卒業研究の発表でした。

研究のベースとなっておりますのは、友人の岳父、故佐藤正雄さんが第 2 次世界大戦において関東軍第 6 国境守備隊所属で終戦を迎えた際、ソ連に戦争捕虜者として 3 年間、シベリアに抑留された時の日記です。

日記の翻刻とともに定期的に行われている抑留体験者の『シベリア抑留者の語り部お話し会』に参加し、ヒヤリングと資料収集をされております。

佐藤正雄さんは、数か所の収容所を転々と移動し、強制労働生活を余儀なくされたわけですが、シベリア三重苦と呼ばれる『飢餓・過重労働・極寒』の生々しい体験を実感しました。

今井氏は卒業研究の報告書概要の結句として「二十一世紀に生きる我々がその悲惨な過去の戦争の過ちを後世に伝えるべく、世界平和維持活動を維持してゆく必要がある」と述べておられますが、今回はサロンでの発表ということで、大戦終結の際の連合国間の折衝、日ソ間の歴史的、政治的な背景については踏み込まれておりませんでした。

卒業研究の本来のテーマからは少し外れるのですが、佐藤正雄さん個人にスポットを当て、生い立ち、出征、復員後の結婚、事業の成功についてのお話がありましたが、故人の幸せな晩年を思うとき、何か救われた思いがいたしました。このサロンは同窓会中心のサロンですが、今回は今井氏が所属されている英会話サークル「うえるかむ」の皆様及び佐藤正雄さんのご親族の皆様と多彩な顔ぶれのサロンでした。

なお、今井氏はこのテーマを修士課程で研究継続との構想をお持ちなので、完結の暁には再度、ご講演をお願いしようと思っております。

